

2020年度事業計画

一般財団法人日本ドッジボール協会

【課題・2018年度からの継続】

小学生競技者減少の中での、ドッジボールの価値向上への取り組み

● 国内の状況

微減

- 全国大会を目指す小学生D1/D1Gチーム(709チーム／-7)

微増

- 全国大会を目指す中学生以上の登録競技者(1440名／+60名)

大幅増加

- 公認審判員(4070名／+100名)
- 公認指導者(3200名／+300名)

増加項目・減少項目共に方向性に関する大きな変化はありませんが、複数年のアンケート、及び実績により、ほぼ次の積極的な要素や割合は固まっています。

全国大会参加チーム簡易アンケート

- ・指導者の4割
学校等、外部からの指導依頼の機会があれば、積極的に対応したい。
- ・6年生の7~8割
もし中学にも部活等の環境があるなら競技を続けたい。

異なるルール・環境でも活動意欲が変わらない
選手・審判員の増加傾向

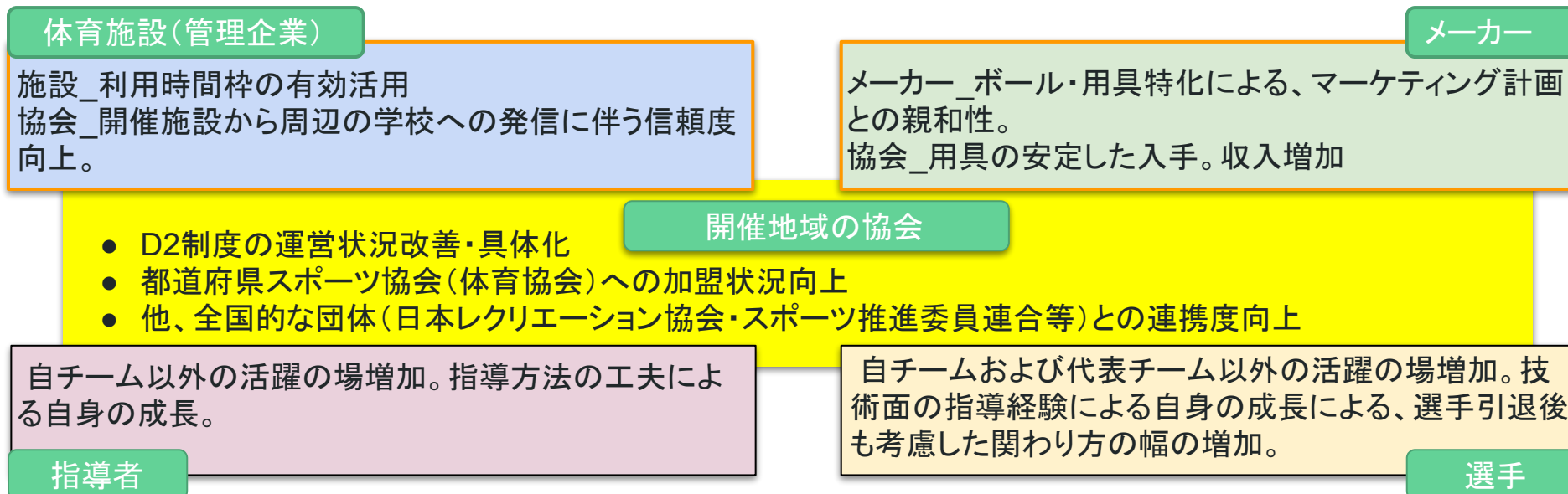
また、2019年度の外部の特徴的な動きとしては、次の項目が挙げられます。

初心者・児童・レクリエーション領域への新規ボールメーカー参入意向(IMIO)

施設管理者・スポーツクラブからの教室開催の依頼の発生(コナミスポーツ他)

これらの要素から、まず活動地域の拡大に関しては、次のような足掛かりを築く余地が出てきたと考えます。

➤ 負担を軽減／分散しながら、空白の地域・年齢層への働きかけ



これまで弱かった図の上段に具体性が見えてきました。空白またはチームの少ない地域の中から、各要素・効果の重複の高い場所から教室を計画することで、別々に動くリスクを軽減しながら地域拡大の可能性を見いだせると考えています。

※ドッジボール教室について

外部と連携した教室はこれまでも行っています。ただ、経費負担企業のCSR的な面もあり、意図的な継続指導や地域を指定した開催には限界もあります。もちろん、地域貢献の一環の効果は間違いはないので、こちらも引き続き行います。

もう一方の年齢層の拡大については、今のところ同様な枠組みを見いだせていません。

シニアチームにおいては、一部を除き、選手がその他の役割も兼任した小規模な運営が多く、スケジュールも流動的にならざるを得ないため、競技未経験の希望者との接点を作りにくい状況です。

前頁のスポーツクラブ・メーカー等を通じて、個人参加でも体験可能なフットサルの個サルのような環境を構築できないか打診を行います。

尚、中学校以上の部活動のまれな例として、昭和女子大付属中学・高等学校には継続したドッジボール部が設置され活動しています。全国的な「適切な部活動のあり方」の議論はメディア等で指摘されていますが、まだその前段階のドッジボールにおいては貴重なケースと捉え、他校に広げるヒントがないか検討を始めます。

● 海外に向けた取り組み

2019年度実績

アジア予選 香港大会
・入賞
男子3位／女子3位、
混合4位
・審判員7名派遣

2020年度

1) 2020 World Cup in Cairo
3カテゴリー入賞

2) 海外でも理解しやすいシングル
ボールルール表現の整備

3) 協会外 外国語対応人材の発掘

2021年度アジア予選(※最短
の場合)「シングル・マルチ両
ルールでの日本開催」の実現
に向けた検討

- 1) マルチボールについても日本の対応力は高い点、並びに、それがシングルボールの活動により積み上げられている点は、アジア予選での全カテゴリー入賞により証明することができました。World Cupに向けた選考には新たな国内選手からの応募もあり、底上げしつつ挑む図式が整いつつあります。
- 2) シングルボールについては、主にADF(マルチボールのアジア連盟)役員が所属するオーストラリアとの情報連携を通じ、多くの国で解釈しやすいルール表現整備に取り組めます。(8ページ)
- 3) 英語を中心とした外国語対応の人材については、今回の世界大会挑戦の一連の動きに合わせて、上記とは別のオーストラリア在住の日本人通訳の方、及び国内のスポーツマーケティングを専門とする大学教授からのアプローチを頂いています。まだ漠然とした形のため、2020年度に調整を進めます。

→ これらの進捗状況を基に、両種目での予選開催の実現性を図ります。

● 全スポーツ団体共通の取り組み

スポーツ団体ガバナンスコードへの適合

スポーツ庁/JSPO/JOC/JPC/JSCより、スポーツ団体の組織運営の健全化・透明化向上のため、共通の行動規範が示され、2020年度より、全加盟団体への審査が順番に始まります。

当協会への審査は3年ほど先になりますが、同時に解決することは困難な程に多くの項目にわたり、網羅的に設定された内容ですので、その分析と、適合に至るまでの設定を始めます。

以上、2020年度は単年度の変化よりも、翌年度以降にどこまで成長の余地を持てるかを確かめていく年となります。

2020年度主要事業(大会関連)

海外は他団体主催事業への派遣です

	日程	事業	場所
①	7月16～18日 (15～20日)	2020 World Dodgeball Cup in Cairo <ul style="list-style-type: none"> 初出場 3カテゴリー50名 6月27～28日直前合宿(山梨県南都留郡) 	カイロ(エジプト)
②	8月16日(日)	第30回全日本ドッジボール選手権全国大会 <ul style="list-style-type: none"> 2023年度まで同会場での開催決定 	茨城県水戸市 アダストリアみとアリーナ
③	10月4日(日)	2020J.D.B.A.全日本選手権 ※内定 2月末に市の調整会議を経て通知	福岡県北九州市 北九州市立総合体育館
④	12月13日(日)	第7回全日本女子総合選手権	茨城県水戸市 アダストリア みと アリーナ
⑤	2021年 3月28日(日)	第30回春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会 <ul style="list-style-type: none"> 北信越ブロック初開催 	石川県金沢市 いしかわ総合スポーツセンター
※アジアカップ(ADC主催)は韓国予定ですが、時期・会場未定のため、事業/予算ともに反映していません。			

①World Dodgeball Cup in Cairo

WDA主催による世界大会に、初めて正式参加します。選手団としては、選手／審判員／スタッフ／役員 計50名(3カテゴリー)を予定しています。

アジア予選の時点では若干人数の不安があった女子選手においても、新たな応募があり、優勝を目指した強化が可能となりました。(2月時点では選考期間中)

審判員については、主催者割り当ては2名ですが、応募数はすでに超えていますので、WDAに打診中です。



スポーツ振興基金助成事業
独立行政法人日本スポーツ振興センター

シングルボールゲームに関しては、2019アジア予選を経て、個人レベルではあるもののオーストラリア協会内に好意的な様子が見られました。そこで、②の水戸の全国大会では、同協会役員の来日を再度計画しています。※1

前回の審判講習会でのWDA会長来日は実現しませんでした※2、前回と異なる点として、アジア予選で競技成績を残し、飾りのない実態を確認したうえでの調整となりますので、現実的な視点で対話を進められると考えています。日本として進めておきたい内容は8ページに掲載しています。

補足

※1

2020年2月時点では、新型コロナウイルスに関する影響に不透明な要素が多いため、海外関係者の来日についての積極的なスケジュール調整は控えています。

※2

GAISF(オリンピックパラリンピック種目を推薦できる団体の一つ)より、最も加盟国・地域数の大きな2つの団体(WDAとWDBF)に対して、統合を強く指示するアナウンスが出されました。両団体とも概要は合意していますが、その速度や力関係によっては、計画に変更が出る可能性があります。

参考として、最終ページに関係図を掲載しています。

⑤春の小学生全国大会は、北信越全域を通じて初開催です。地域の普及に繋がるよう取り組むとともに、開催県の組織力向上にも取り組みます。

	参加数	予選数	
⑤第30回春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会	48チーム 1000名	47都道府県	いしかわ総合スポーツセンター 前年度優勝枠輩出県+1



②夏の全国大会は、2019年度に続きアダストリアみとアリーナでの開催です。5年連続開催の2年目となる2020年度は、④の全日本女子総合選手権と合わせ両大会が水戸市での開催となります。地理的な利点を活かし、全体的なチーム減少が懸念材料の一つとなっている東北地域のチーム増加へ繋げるよう取り組みます。また、同じく④女子総合選手権のシニア女子部門に関しては、2019年度の広島での小学生全国大会を機に、これまで選出の無かった中国ブロックから、参加目標が上げられています。

	参加数	予選数	
②第29回全日本ドッジボール選手権全国大会	48チーム 1000名	47都道府県	アダストリアみとアリーナ 前年度優勝枠輩出県+1
④第7回全日本女子総合選手権	D1G 32チーム シニア女子16チーム 計800名	6ブロック	アダストリアみとアリーナ

③全日本選手権は、小学生及び女子の2度の全国大会の開催経験を持つ福岡県での開催です。同県を含む九州ブロックでは、県スポーツ協会(体育協会)加盟県が無い状況が続いていましたが、開催地の福岡県協会が体育協会への加盟手続きを進めておりますので、県全域を統括する団体としての証明となるよう取り組みます。また、鹿児島県協会も県体協加盟を進める予定ですので、合わせてブロックの活動強化に繋がるよう検討を進めます。

	参加数	予選数	
③2020J.D.B.A.全日本選手権	32チーム500名	9ブロック	

年間を通して行う事業

・練習球、2号球の改良

2019年度以降進めている、安全性に配慮したボールの改良は、小学生D1/D1G大会公式球の改定を終え、2020年度予選からは大会公式球として使用となります。その使用状況も参考に、2020年度は練習球・2号球の改良作業を進めます。

・シングルボールの海外普及⇔マルチボールの国内普及

○シングル種目海外普及

1. JDBAルール現行簡易版(英語版)の精査 (3月)
2. JDBAシングルボール国際ルール(海外普及用)策定／簡易版作成 (4～5月)
ADFに連携し、加盟国に配信依頼 (6月)
3. JDBAシングルボール国際ルールの作成 (8月)
0. 国際大会における、審判員コミュニケーション(マルチ種目共通) (6月)
(選手⇔審判員⇔オフィシャル間で「ドッジボール上の会話」を目的とした基本文例作成)

○マルチ種目国内普及

1. 講習会テキストを精査、更新し、改訂版作成 (10月)
2. 上記1.完成後、国内加盟団体へ配付 (12月)
3. WDAルールブック和訳版の精査、改訂 (2021年2月)
4. JDBAマルチボール審判資格管理(取得講習、資格付与、更新等) (2021年3月)

専門委員会単位の定例事業／会議

各委員会から登録会員向けに行う認定会・講習会・研修会はそれぞれ、次のとおりです。

指導委員会

公認指導者講習会

集合学習④

2024年度以降の大会は、(公財)スポーツ協会ドッジボールコーチ1取得者が各チームにベンチ入りすることを要件に掲げています。

各チームが計画的に取得できるよう、ブロックの取得率を確認しながら開催場所を選定していきます。

競技委員会

B級公認審判員認定会 9会場

※次回A級公認審判員認定会は2021年度(隔年で、1年間を通して実施)

主な会議体につきましては、次のとおりとなります。

理事会6回・評議員会2回(6月末／2月末)・ブロック長会議1回(9月)※

※ブロック長は定款上の専門委員または役員ではありませんが、ジュニアカテゴリーの設計など、今後の課題についてブロック間の自主的な情報共有・制度調整の促進を目的に実施します。

ADC理事会(ADC主催・1回)／WDA会議(7月W杯時)

各全国大会の実行委員会・専門委員会毎の会議と合わせて、2019年度同規模で計画しています。

参考・2019年度時点の国際団体関係図

GAISF 国際競技連盟連合

現メンバーはWDA(オブザーバーステータス)
ただし、次回ステータス更新には「WDBFとの統合」が必須条件

IOCへ、オリンピックパラリンピック種目を推薦
できる団体の一つ

WDA

World Dodgeball Association

世界ドッジボール協会

5ボール

加盟48か国・地域(日本含)

対立?

WDBF

World Dodge Ball Federation

世界ドッジボール連盟

6ボール

加盟国58か国・地域

ADF

Asian Dodgeball Federation

アジアドッジボール連盟

5ボール

加盟25か国・地域(日本含)

日本
JDBA

ADC

Asian Dodgeball Confederation

アジアドッジボール連盟

1ボール

加盟4か国・地域(日本含)